

第一問（40点満点）

■採点の原則

- ① 全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文（章）の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ② 漢字の誤り、送り仮名の誤り、句点の抜けについては、一つごとに1点減点する。

問一

■形式上の不備

- ・文末表現は要素D参照

基準 配点8点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A B C
戦争を行い奴隷制を容認する政府 からの要求を拒絶することは市民の義務であり、その義務は直接行動によって果たされるべきだという考え。

■別解

A C B
誤りを支持する政府への支持を撤回し、道徳的判断を行使して 政府の要求を拒絶することは良心的な市民の義務だという市民的不服従の考え。

■採点方法…各要素単独採点

- 要素A 「戦争を行い奴隷制を容認する政府」…3点
- 要素B 「政府からの要求を拒絶することは市民の義務」…3点
- 要素C 「その義務は直接行動によって果たされるべきだ」…2点
- 要素D…文末表現は「……という考え。」という形が原則。「……とする考え。」「……というもの。」なども許容する。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素D参照

基準 配点8点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 国家や政府とその法は 人民の利害促進のための人為的な形成物に過ぎないので、絶対不可侵なものを見なしてはならないということ。 B C それ自体を

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「国家や政府とその法は」…1点

■要素B 「人民の利害促進のための人為的な形成物に過ぎないので」…3点

■要素C 「それ自体を絶対不可侵なものを見なしてはならないということ」…4点

■要素D …文末表現は「…：…こと。」という形が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素D参照

基準 配点8点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 選挙では多くの票を得た者が勝つが、多数であることは正義を保証しないので、選挙制度は必ずしも正義の実現につながらない。と考えるから。 D B C

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「選挙では多くの票を得た者が勝つが」…2点

■要素B 「多数であることは正義を保証しないので」…3点

■要素C 「選挙制度は必ずしも正義の実現につながらない」…3点

■要素D…文末表現は「……から。」という形が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・字数が一〇〇字に満たない場合、加点なし。
- ・文末表現は要素F参照

基準 配点13点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A ソローは国家や政府といった制度への不信を貫き、^B直接行動によって不服従の意志を示すこと
で制度の外部で生きようとしたが、^Cそれは世俗の制度と無関係に生きる隠遁ではなく、^D今ある
関係性を相対化し、^Eより良い関係性を探るための一時的な撤退だったということ。(一二〇字)

■採点方法…各要素単独採点

- 要素A「ソローは国家や政府といった制度への不信を貫き」…2点
- 要素B「直接行動によって不服従の意志を示すことで制度の外部で生きようとしたが」…2点
- 要素C「それは世俗の制度と無関係に生きる隠遁ではなく」…3点
- 要素D「今ある関係性を相対化し」…3点
- 要素E「より良い関係性を探るための一時的な撤退だった」…3点
- 要素F…文末表現は「……こと。」が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

問五 漢字の書き取り 各1点×3

a 包摂

b 精巧

c 惰性

★2022年度 東大本番レベル模試 第4回 第二問(古文『沙石集』) 採点基準

※文科30点・理科20点

※解答中の「常観房」は「上人・三輪の上人」でもよしとする。「御房・法師・僧・坊主」等は×。

第二問(一) 文科ア・理科ア 傍線部アを現代語訳せよ。なお、「真言」はそのままでよい。

- 文末表現は、要素Cにあるとおり。
- ・ 句読点の抜けは不問。

■ 基準 配点【3点】

■ 傍線部

A1あまなく B1真言を人に授けらるる C1聞えありき。

■ 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A1広く B1真言を人々に授けなされる C1という評判があった。

- 採点方法 各要素単独採点。
- 字数 指定なし。

「ポイント」

要素A【1点】広く

要素B【1点】真言をよすけなされる

要素C【1点】という評判があった。

第二問（一）文科イ・理科イ 傍線部イを現代語訳せよ。

- 文末表現は、要素Bにあるとおり。
- ・ 句読点の抜けは不問。

■ 基準 配点【3点】

■ 傍線部

A1 父は遠く歩いて B2 候はず。

- 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A1 父は遠くへ出かけていて B2 おりません。

■ 採点方法 各要素単独採点

■ 字数 指定なし。

「ポイント」

要素A【1点】 父は遠くへ出かけていて

要素B【2点】 おりません。

第二問（一） 文理工・理科ウ 傍線部を現代語訳せよ。

- 文末表現は、要素Bにあるとおり。
- ・ 句読点の抜けは不問。

■ 基準 配点【3点】

■ 傍線部

A1 いつでもまた **B2** 参りなむ

- 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。
A1 いつでもまた **B2** 必ず参詣しよう。

■ 採点方法 各要素単独採点

■ 字数 指定なし。

「ポイント」

要素A【1点】 いつでもまた

要素B【2点】 必ず参詣しよう。

第二問 文科(二) 文科のみ。

「まことにさこそ」(傍線部ウ)とあるが、「さこそ」はどのような内容を指すか、説明せよ。

- 文末表現は不問。
- ・ 句読点の抜けは不問。

■ 基準 配点【5点】

■ 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A1 父の留守中に **B1** 母が死に、 **C2** 女子の自分や幼い弟たちでは用えず、 **D1** 悲しい。

■ 採点方法 各要素単独採点。

■ 字数 指定なし。

【ポイント】

要素A【1点】 父の留守中に

要素B【1点】 母が死に

要素C【2点】 女子の自分や幼い弟たちでは用えず、

要素D【1点】 悲しい。

第二問 文科(三)・理科(二)

「参れ」と思し召したるにや」(傍線部 文科才・理工工)とあるが、常観房はなぜそう思ったのか、説明せよ。

- 文末表現は、理由を説明する表現「から・ので・ため」等)になっていない場合は、**マイナス1点**。
- ・句読点の抜けは不問。

■ 基準 配点【5点】

■ 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A2 三輪へ向かうと動かなかった体が、**B3** 吉野へ向かうと問題なく動いたから。

■ 採点方法 各要素単独採点。

■ 字数 指定なし。

「ポイント」

要素A【2点】 三輪へ向かうと動かなかった体が、

要素B【3点】 吉野へ向かうと問題なく動いたから。

第二問 文科(四) 文科のみ。

「恐れもあれば、御殿ごてんよりはるかなる木の本にて念誦ねんじゆし、法施奉ほふせつてまつる」(傍線部力)とあるが、常観房は何を恐れているのか、説明せよ。

■ 文末表現は不問。

・句読点の抜けは不問。

■ 基準 配点【5点】

■ 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A2 精進潔斎して参詣すべきなのに、**B2** 死者に接して汚れ、**C1** 神の罰が当たること。

■ 採点方法 各要素単独採点

■ 字数 指定なし。

【ポイント】

要素A【2点】 精進潔斎して参詣すべきなのに、

要素B【2点】 死者に接して汚れ、

要素C【1点】 神の罰が当たること。

第二問 文科(五)・理科(三)

「あまりにかたじけなく、貴くおぼえけれ」(傍線部 文科キ・理科オ)とあるが、どのような「と」に対する思いか、説明せよ。

■ 文末表現は不問。

・句読点の抜けは不問。

■ 基準 配点【6点】

■ 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A3 神が待っていてくれて **B3** 「慈悲を施したことは貴い」と言ってくれたこと。

■ 採点方法 各要素単独採点

■ 字数 指定なし。

「ポイント」

要素 A【3点】 神が待っていてくれて

要素 B【3点】 「慈悲を施した」とは貴い「"と言ってくれたこと。

最終 東大本番レベル模試 第四問漢文 採点基準 (文科30点満点、理科20点満点)

(一) 現代語訳

a

■ 解答例

実用には適さない (2点)

■ 配点

※ 「実用には適さない (適していない)」「実用には向かない (向いていない)」「用いるには向かない (向いていない)」「用いるのは適さない (適していない)」「使うには向いていない」「使用 (する) には適さない」など○2点

※ 「実用的ではない」「使えるもの (わけ) ではない」などでも○2点

※ 「用いることはできない」は▲マイナス1点

※ 句読点の有無は不問

(一) 現代語訳

c

■ 解答例

あ おそろしく い どれほどもない あ であろう (2点)

■ 配点

a 「蓋し」の意味……1点

※ 「おそろく……(であろう)」「思うに……(であろう)」「たぶん……(であろう)」「きっと……(であろう)」「そもそも……(であろう)」「など○1点

※ aの推量表現「……であろう」はなくても可。

b 「いくばくも無し」の意味……1点

※ 「どれほどもない」「どれほどもない」「それほどはない」「ほとんどいな
い」「たいしていない」など○1点

※ 「少なかった」「少しもいなかった」などでも○1点

※ 「いない」ではなく「ない」としているものも○1点

※ 「いなかった」「一人もない」は×

※ 句読点の有無は不問

(一) 現代語訳

e

■ 解答例

し^aかも手^bに入りやすい(こと) (2点)

■ 配点

a 「且つ」の意味……1点

※ 「しかも」「その上」「加えて」「さらに」など○1点

※ 「また」としているものも○とする。

※ 「しばらく」「まさに」「いまにも」などは×

b 致し易き(こと)の意味……1点

※ 「手に入りやすい(こと)」「入手しやすい(こと)」「得やすい(こと)」「手
に入れやすい(こと)」「など○1点

※ 「くは」と助詞の「は」はあっても良い

※ 「与えやすい」「アクセスしやすい」「届けやすい」などは×

(二) 現代語訳

■ 解答例

a 求めて手に入らないことがないものは、^bただ書物だけではないだろうか。 (6点)

■ 配点

- a 「求めて獲ざる」と無き者は」の訳……3点
- ※二重否定（強い肯定）の訳出がポイント。
- ※「求めて手に入らないことがないものは」「求めれば必ず手に入るものは」で○3点
- ※「求めて」を「要求して」、「獲」を「獲得する」などになっているものは、各マイナス2点
- ※「獲」の対象を「真理を」など、取り違えているものは×
- ※「求めても得られないものは」のように、二重否定が訳出できていないものは×
- ※「求めて」はそのまま良いが、「手に入れようとして」などでも○
- ※「獲」は「入手」などでも○
- ※「者」を「者」のままにしているものは▲マイナス2点
- ※「者」を「人」「人物」のように、明らかに人間にしているものは×
- b 「惟だ書のみならんか」の訳……3点
- ※「惟だ……のみ（限定）」の訳出、「……んか（推量＋疑問）」の訳出のミスは各マイナス1点
- ※「ただ書物だけではないだろうか」「ただ書物だけであろうか」「書物だけではないかろうか」など○3点
- ※「ただ書物だけであろう（疑問欠）」「書物だけではないか（推量欠）」「書物ではなからうか（限定欠）」など▲マイナス1点
- ※「ただ書物だけではない」のように「乎」を反語に使っているものは×

(三) 内容説明問題

■解答例

後の世の君子たちは、^a昔の学ぶ人たちが、道義や徳目を深く理解していたことに、^b遠く及ばない。ということ。 (8点)

■配点

a 「後世の君子の」の要素……2点

※ 「後世の君子(たち)は」のままでもよいが、「後の世の君子と呼ばれる人」「後世の人格者たち」「後世の学ぶ人たち」などでも○

b 「後世の君子」に対比されているものの補い……2点

※ 「昔(古)の学ぶ人たち」「昔の君子たち」「昔の学者たち」「昔の人々(人たち)」「孔子の時代の人たち」「昔の礼楽を学んだ人」など○

※ 「古の聖人」「孔子のような聖人」などは×

c 「道徳に深きこと」の要素……2点

※ 「道義や徳目を深く理解していたことに」「道義や徳目をよくわかっていったことに」など○

※ 「道義や徳目に深かったことに」でも可とする。

※ 「道徳に通じていた」「道徳に造詣が深い」など「道徳」のままはマイナス1点

※ 「道徳や徳目」もマイナス1点

d 「及ぶ所に非ず」の要素……2点

※ 「遠く及ばない」「及ばない」「及ぶところではない」など○

※ 「bほどにはcでなかった」「bに比べて劣っていた」のようでもよい。

e 文末の「〜ということ」の有無は不問とする。

(四) 文科のみ

■ 解答例

書物は入手しやすくなり、昔の人よりはるかに恵まれているのに、空理空論に興
じ、いいかげんにしか学ばなくなっている。 (10点)

■ 配点

a 「秦漢以来、作る物益衆く、……書益多くして世に有らざる無し」 (第二段落)、
「学ぶ者の書に於けるや、多くして且つ致し易きこと」 (第三段落) などからの要
素……2点

※ 「書物が沢山世に出ている」こと、「書物が手に入りやすい」こと、「読もうとす
ればいくらでも書物がある」ことなどに触れてあれば○

※ 書物自体が増えていることが書けていれば○

b 「紙と字画と、日に簡便に」 (第二段落)、「其の文詞學術は、当に昔人に倍すべ
し」 (第三段落) などからの要素……2点

※ 「昔(の人)に比べて恵まれているのに」「昔の人より何倍も勉強できるのに」
「昔の人に比べてずっと学びやすいのに」など○

※ 「昔(の人)に比べて……なのに」ということに触れてあればよい。

※ 「紙が入手しやすくなった」「字体も簡略化させた」などはあってもよいが、なく
てもよい。

c 「無根なることを遊談する」の要素……2点

※ (注) があるのでそのまま用いてよい。

※ 「空理空論に興じ」「根拠もない議論ばかりして」「議論に耽っているばかりで」
など○

d 「学ぶ者益以て苟簡なる」の要素……4点

※ 「いいかげんにしか学ばなくなっている」「いいかげんになっている」「学問がい
いかげんになっている」「学ぶことをおろそかにしている」など○

※ 「苟簡(『いいかげん』)のポイントがあれば○。

※ 「いいかげん」の要素がなく「学ばなくなった」「書物を読まなくなった」のみは
×。

第四問（20点満点）

■採点の原則

- ① 全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文（章）の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ② 漢字の誤り、送り仮名の誤り、句点の抜けについては、一つごとに1点減点する。

問一

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

基準 配点5点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

庭の石榴の木に生っている実の中でも特に大きな実が割れて、まるで真赤な大口をあけて笑っている人の顔のように見えている様子。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「庭の柘榴の木に生っている実の中でも特に」…1点

■要素B 「大きな実が」…1点

■要素C 「割れて」…1点

■要素D 「まるで真赤な大口をあけて笑っている人の顔のように見えている様子」…2点

■要素E 文末表現は「…：様子。」という形が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素F参照

基準 配点5点

- 模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 自由奔放に動く
B 雲の一片は、
C 頑なな心を気ままな想像と幻想の世界へと導いてくれる、
D 起居
E の自由を欠いた 「私」の大事な一部だということ。

- 採点方法…各要素単独採点

- 要素A 「自由奔放に動く」…1点

- 要素B 「雲の一片は」…1点

- 要素C 「頑なな心を気ままな想像と幻想の世界へと導いてくれる」…1点

- 要素D 「起居の自由を欠いた」…1点

- 要素E 「「私」の大事な一部だ」…1点

- 要素F …文末表現は「……こと」という形が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素D参照

基準 配点5点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 石榴の実を齧っている土鼠を見た瞬間に、
B 以前、庭の無花果の実を齧っていた土鼠がいたこと
C を思い出し、同じ土鼠に違いないと思ったから。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「石榴の実を齧っている土鼠を見た瞬間に」…1点

■要素B 「以前、庭の無花果の実を齧っていた土鼠がいたことを思い出し」…2点

■要素C 「同じ土鼠に違いないと思った」…2点

■要素D 文末表現は「……から。」という形が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素E参照

基準 配点5

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 身体の不自由さと引換えに得た、雲のように気ままに想像の世界に遊ぶ心と、
B 一つ所から世界
C
D を細やかに眺める 静かで落ち着いた眼差し。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「身体の不自由さ」…1点

■要素B 「雲のように気ままに想像の世界に遊ぶ心」…2点

■要素C 「一つ所から世界を細やかに眺める」…1点

■要素D 「静かで落ち着いた眼差し」…1点

■要素E…文末表現は、設問の「何をもたらしたか」という問い方に対応する形（〈名詞形〉〈名詞形〉をもちいたした。）になっていればよい。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。